ネットワークにつながりパソコンと連携する新世代録画サーバー

NEC AX10

ハードディスクレコーダー

発売元	日本電気株式会社
発売日／価格	11月28日／オープン価格（直販予約価格99,800円）
サイズ／重量	幅430×奥行き280×高さ68mm（脚部含む）／約5.3kg
ハードディスク容量	80GB
録画時間	長時間モード 約76時間／標準画質モード 約40時間／高画質モード 約20時間
受信チャンネル	VHF（1～12ch）、UHF（13～62ch）、地上波データ放送（ADAMS-EPG）
高画質機能（本体タブレット部）	ゴーストリデューサ、3次元Y/C分離、デジタルノイズリダクション、タイムベースコレクター
映像・音声入出力端子	入力2、出力1（S/コンポジット、ステレオ音声）
ネットワーク端子	100BASE-TX／10BASE-T
対応OS	ウィンドウズMe/XP（付属ソフトウェア「SmartVision/PLAYER」）
参考URL	121ware.com
問い合わせ先	0120-977-121

新製品の発表が相次ぐハードディスクレコーダーだが、NECの「AX10」はこうした製品の中でも際立った個性を持った新しいコンセプトの製品だ。AX10は単体で動作するハードディスクレコーダーとしても使えるが、イーサネットでネットワークに接続すれば、パソコンで番組を見たり予約したりといった操作も可能となる。本当の意味で使える「ネットワーク家電」の第1号と言ってもいいだろう。

ハードディスクレコーダーとして見ても、AX10の性能はかなり高い。80GBのハードディスクを内蔵し、標準画質（4Mbps）では約40時間まで録画が可能だ。また、チューナーにはゴーストリデューサーやデジタルノイズリダクションを搭載しているため、画質もかなり良好だ。実際にゴーストリデューサー機能をON/OFFして同じ番組を録画してみると、その効果ははっきりとわかる。MPEG-2のようなデジタル録画では、ソースとなる映像をいかにアナログ処理できれいにしておくかが重要であるかということが実感できるはずだ。また、電子番組表（ADAMS-EPG）にも対応しているので、録画予約もスムーズだ。

ネットワークにはイーサネットで接続し、標準設定ではDHCPでIPアドレスを自動で取得する。ブロードバンドルーターのある家ならば、ネットワークまわりの設定はまったく必要ない。パソコンに付属ソフトの「SmartVision/PLAYER」をインストールすると、自動的にネットワーク上のAX10を検出する。

SmartVision/PLAYERで可能となるのは、

・放送中の番組の視聴
・録画した番組の視聴
・録画予約
・録画した番組の映像編集

の4点だ。つまり、AX10をリビングに置いて、テレビを自室のパソコンで見るといった使い方が可能になる。放送中の番組の場合はMPEG-2データのままネットワークを流れるため、標準画質の4Mbpsでは無線LAN経由で視聴するのはやや困難だが、2Mbps程度までレートを落とせば十分に見ることができた。また、録画した番組の場合には、よりビットレートの低いMPEG-4での視聴も可能となる。

さらに、録画した番組はデータとしてパソコンにコピーでき、編集も可能だ。パソコンにDVD-Rドライブがあれば、そのままDVD-Videoとして保存もできる。パソコンの周辺機器としても、AX10は極めて優秀な製品だ。

予想店頭価格は約10万円。単なるハードディスクレコーダーとしてだけでなく、パソコンとも連動して操作できるという点で、この冬の新製品の中では断然イチオシの製品だ。　（編集部）

SmartVision/PLAYERでAX10に接続したところ。映像データはパソコンへのコピーも可能。

EPGを搭載しているため、番組のデータを常に参照でき、録画予約もわかりやすい。

オススメ度 ●●●●●

高機能チューナー搭載のハードディスクレコーダーとして単品でもおすすめ。パソコンもテレビもヘビーに使う人なら迷わず購入したい。

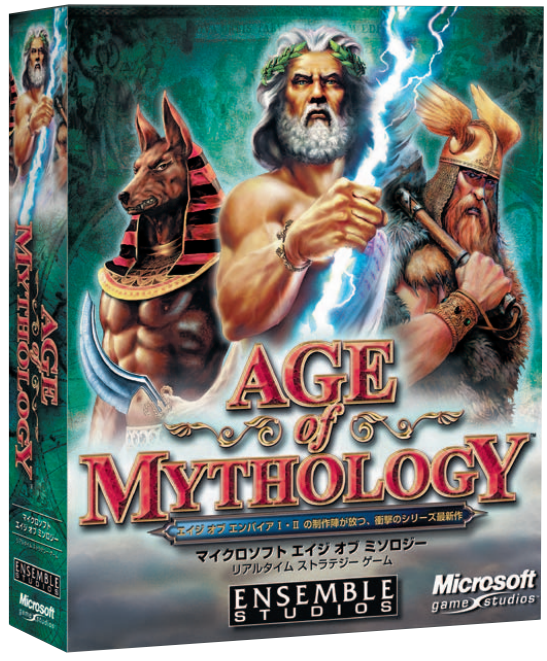
インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

エイジ オブ エンパイアが神話を舞台にしてパワーアップ 今回もハマること間違いなし!!

エイジ オブ ミソロジー

リアルタイムストラテジーゲーム

発売元	マイクロソフト株式会社
発売日	12月13日
価格	オープン価格（推定小売価格：約9,800円）
対応OS	ウィンドウズ98/Me/2000/XP
必要CPU	ペンティアムIII 500MHz以上
必要メモリ	256Mバイト以上
ハードディスク容量	1.6Gバイト以上
参考URL	www.microsoft.com/japan/games/aom/
問い合わせ先	03-5454-2300



エイジ オブ ミソロジー（Age Of Mythology）は、リアルタイムストラテジーゲームの傑作と名高い「エイジ オブ エンパイア」シリーズの最新作だ。リアルタイムストラテジーゲームとは、操作をリアルタイムで行うシミュレーションゲームの一種。戦局全体を見渡す冷静さと、緻密な戦略が必要な人気ジャンルだ。

ゲームの基本は「富国強兵」で、物資や兵士が潤沢にある国家が有利だ。とはいえ、のんびり内政ばかりに注力して軍隊を配備し忘れると、敵国に攻め込まれてあっという間にゲームオーバー。このゲームではなによりスピードとバランスが要求されるのだ。戦闘もリアルタイムで行われ、戦局の変化をみながら突撃や待機、不利なときは撤退などを選択する。

ここまで書くと「非常に難しいゲーム」と思うかもしれないが心配は無用だ。「チュートリアル」を選択すれば、基本的な操作を覚えながらゲームが楽しめる。さらに、コンピュータの強さや、自分の同盟軍の数を自由に設定できるので、コンピュータを弱くして自分の同盟軍を多くするなど、自分に有利に設定すればじっくりと操作の練習ができる。

おもなゲームモードは、コンピュータと対戦する「シングルプレイヤー」、シナリオを順番にクリアする「キャンペーン」、人間を相手に対戦する「マルチプレイヤー」の3つ。シングルプレイヤーやキャンペーンもおもしろいが、もっとも燃えるのは人間が相手のマルチプレイヤーだ。マルチプレイヤーは、LANかインターネット経由で接続した相手と対戦できる。まずは、友達を誘って同盟を組み、コンピュータ相手に練習するといいだろう。

エイジ オブ エンパイアシリーズは、ゲームに熱中するあまり、会社をクビになったり大学を留年したりする人まで出した名作シリーズ。エイジ オブ ミソロジーも、まったく期待を裏切らないでき映えだ。ダラダラとビデオを見て過ごすお正月もよいが、エイジ オブ ミソロジーにハマってみてはどうだろうか。（編集部）

軍隊ユニットには、歩兵や騎馬隊、投石機や船などのほか、モンスターも登場する。攻撃に備え、都市を城壁で囲って防御できる。

ミノタウロスやケンタウルスなど、神話に出てくるユニットを操れる。

オススメ度 ●●●●●

マルチプレイヤーの参加人数が12人に増え、さらに大規模な戦闘ができるようになった。キャンペーンのシナリオが全部で35本になるなど、マルチプレイヤー以外も強化されている。

©1994-2007 Impress R&D

アクセスポイントでもクライアントでも使える1台2役の無線LAN製品

モニタへ P80へGO!

WN-B11/LAN

IEEE 802.11bアクセスポイント、クライアント

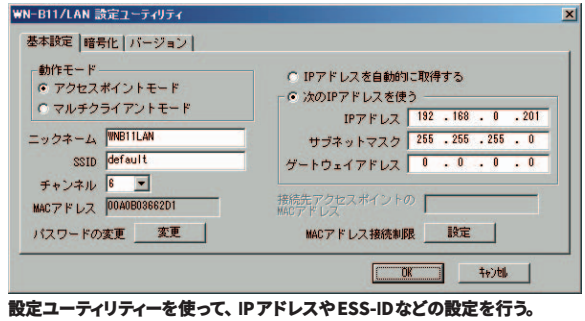
発売元	株式会社アイ・オー・データ機器
発売日／価格	10月末／オープン価格（実売価格：約1万2,000円）
サイズ／重量	72（W）×23（H）×102（D）mm／約80グラム
対応OS	10BASE-T対応で、TCP/IP通信が行える機器
インターフェイス	10BASE-T
通信規格	IEEE 802.11b
対応暗号化方式	WEP64ビット、128ビット
付属品	ユーティリティーCD-ROM、ACアダプター、LANクロスケーブルなど
参考URL	www.iodata.co.jp/products/plant/2002/wn-b11an.htm
問い合わせ先	ご購入相談窓口　03-4288-1039

WN-B11/LANは、ユーティリティーで動作モードを切り替えることで、アクセスポイントかクライアントとして動作させられるIEEE 802.11b（802.11b）準拠の無線LAN機器だ。TCP/IPを使った通信で10BASE-T対応のLANポートを持つ機器ならOSなどを問わずに対応するが、設定ユーティリティーはウィンドウズのみの対応となっている。

設置方法は、据え置きのほか同梱のパーツを使って壁に掛けられるなど、設置場所によって選択できるようになっている。アンテナの角度を調節できるようになっており、据え置きでも壁掛けでもアンテナの性能を十分に発揮できる（右下写真）。

有線LANのインターフェイスは、転送速度が10Mbpsの10BASE-Tを採用している。現在では、ほとんどの通信機器が100Mbpsでの転送が可能な100BASE-TXを採用しているが、802.11bの実効速度は4Mbps前後のため、10BASE-Tでも問題ないだろう。

WN-B11/LANのIPアドレスは、初期設定では「192.168.0.201」に設定されている。多くのルーターは、ネットワークアドレスを「192.168.0.0」に設定しているため、WN-B11/LANのIPアドレスを変更する必要はないだろう。ただし、すでにIPアドレスが使われているときや、ネットワークアドレスが「192.168.1.0」のような場合は、WN-B11/LANのIPアドレスを変更する必要がある。変更の方法はマニュアルに記載されているものの、ネットワークの技術に詳しくない人にはかなりハードルの高い作業となる。



設定ユーティリティーを使って、IPアドレスやESS-IDなどの設定を行う。

アクセスポイントとしてWN-B11/LANを評価すると、通信チャンネルの選択、ESS-IDの変更、64ビットと128ビットのWEP対応、無線LANカードのMACアドレスによる接続制限など、一通りの機能を備えている。残念な点は、ESS-IDが「ANY」のクライアントの接続を拒否する機能がない点と、アクセスポイントのESS-IDを隠す機能がない点だ。競合する製品である、プラネックスの「GW-AP11H」ではこれらに対応しており、ファームウェアのアップデートによる機能の拡張に期待したい。

同じ価格帯の「GW-AP11H」と比較すると、セキュリティーでは劣る点があるものの、クライアントとして利用できる機能が特徴となっている。将来ネットワーク構成を変更する予定のあるユーザーに便利な製品だろう。　（編集部）

アンテナの角度は自由に調節できるようになっている。

オススメ度 ●●●○○

アクセスポイントとクライアントの両方に対応しているので、LAN構成が変化しても柔軟に対応できる。アクセスポイントを隠す機能など、セキュリティー機能を強化してほしい。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

PPPoEスループット実測72Mbps 無線LAN対応の 高速ブロードバンドルーター

NetGenesis SuperOPTAir

無線ブロードバンドルーター

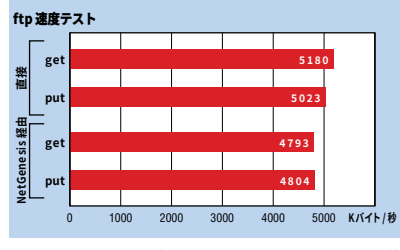
発売元	株式会社マイクロ総合研究所
価格	オープンプライス（オンラインショップ価格31,800円）
対応回線	光、xDSL、CATV
CPU	SH-4/240MHz
WAN側インタフェース	10BASE-T/100BASE-TX
LAN側インタフェース	10BASE-T/100BASE-TX AUTO MDI/MDI-X対応、スイッチングハブ4ポート
無線LAN機能	IEEE 802.11b準拠、WEP128ビット対応
ルーター機能	NAT＋IPマスカレード、PPPoE、unnumbered対応、SYSLOG、SNTP、DHCPクライアント&サーバー
本体寸法/重量	幅43×奥行き144×高さ163mm/約380g
付属品	11Mbps対応無線LANカード、LANケーブル、ACアダプターなど
参考URL	Jump www.mrl.co.jp/catalog/nw/mr-nwgoptair.htm
問い合わせ先	コンシューマ営業部 03-3458-9021

どこまでも速度にこだわるマイクロ総合研究所から、ブロードバンドルーター「NetGenesis SuperOPTAir」が発売された。これは、すでに発売されている「NetGenesis SuperOPT90」にIEEE802.11b対応の無線LAN機能を追加したもので、ニーズの高い無線とブロードバンドの両方を1台で実現した。同社によると、WAN/LANポート間のスループットは実測90Mbpsで、PPPoE接続でも実測72Mbpsを達成しており、現時点で家庭向け製品としては、最速ルーターの1つに挙げられる。「OPT」のネーミングからもわかるように、Bフレッツなどの100Mbpsレベルの回線に対応することを主眼にした速度重視のルーターだ。他の機能は比較的シンプルだが、LAN側に固定IPアドレスを割り当てるunnumberedやLAN内の特定IPアドレスに転送するDMZ機能を備えているので、固定IPアドレスで自宅サーバーを置きたい場合にも対応できる。もちろん、PPPoEやNAT＋IPマスカレード、DHCPサーバー&クライアント機能、IPフィルタリングなどブロードバンドルーターに必須な機能はすべて用意されている。

実際に速度を調べたところ、フレッツスクエアでは、ウィンドウズXPのPPPoE接続では33.52Mbpsだったのが、このルーターを使うと48.27Mbpsにスピードアップした。回線はBフレッツニューファミリータイプの100Mbpsだ。72Mbpsという驚異的な数字ではなかったが、マシンがペンティアムIII600MHzとやや古いノートPCだったこと、設定をカスタマイズして高速化しなかったこと、Bフレッツ回線の状態が時間帯や場所によって異なることを考えると、よい値だといえるだろう。ルーターを設置しただけでスピードアップするのは大きな魅力だ。また、ルーターを介した場合と直接サーバーと接続した場合とでftpテストを行ったが、速度低下はわずか。こちらも最速マシンの組み合わせならもっとよい値が得られそうだ。

ただ、実際のプロバイダーとの接続ではこれだけの値が出ることはない。ウェブページの表示はわずかに速くなるが、体感速度はあまり変わらない。通常の使用環境で「72Mbps」を実感するには、高速なPC、できのいいネットワークカード、スループットの高いプロバイダーなど条件が揃っている必要がある。少しでも高速化したい場合やサーバーを立ち上げる場合などに利用するのがいいだろう。ただ、無線LANも標準で付いている点も含めて考えれば、価格は決して高くない。将来に備えて高速なルーターを選択するという考え方もできる。10Mbps以上の回線を利用するユーザーは購入を検討する価値があるルーターだ。（梅垣まさひろ）

ウィンドウズXPのPPPoEとNetGenesisを使った場合で、フレッツスクエアの速度テストを行った。PCはモバイルペンティアムIII600MHzのノートPCで、ネットワークパラメーターのチューニングはしていない。



NetGenesisのWAN側にFreeBSDサーバーを置き、約100Mバイトのデータをftpコマンドでget/putしたときの5回の平均速度をグラフにした。サーバーと直接つないだ場合と比較してわずかな差が見られた。

オススメ度 ●●●○○

速度がウリという点がポイントだ。スピード重視なら迷わず買うべし。そうでないなら、他の選択肢もありそうだ。

©1994-2007 Impress R&D

USB1.1とパラレルポートを持つ。さらに、オプションで10/100BASE-TXネットワークボードを装着できる。

FAX・コピー・スキャナー ダイレクトプリントもできる SOHO対応のデジタル複合機

マルチファンクションセンター MFC-5200J

プリンター複合機

発売元	ブラザー工業株式会社
価格	79,800円(実売価格59,800円)
対応OS	ウィンドウズ95/98/98SE/Me/XP、NT4.0/2000Pro、MacOS 8.6-9.2
インターフェイス	双方向パラレル/USB1.1(10/100BASE-TXオプション)
印字方式	カラーインクジェット
プリント解像度	最大2400×1200dpi
プリント速度	カラー最高16PPM、モノクロ最高20PPM(A4ドラフトモード出力時)
コピー解像度	最大1200×1200dpi
用紙サイズ	A4/レター/B5/リーガル/A5/A6/L/2L/官製ハガキ/封筒など
本体寸法／質量	幅492×奥行き466×高さ378mm(突起部除く)/約13kg(消耗品除く)
参考URL	Yahoo! www.brother.co.jp
問い合わせ先	052-824-3097

今月号の特集記事でも紹介しているように、家庭向けにプリンター、スキャナー、カラーコピー、ダイレクトプリントが付いた1台4役の複合機が相次いで発売されている。さらに機能を増やすとしたら次はFAXだが、FAX付きになると価格が跳ね上がり、ましてや家庭では購入する際の選択肢に入れにくい傾向にあった。それが、ブラザーから発売された「MFC-5200J」は実売で5万円台を実現。しかもオプションのネットワークボードを加えることで簡単にLANに接続できるため、家庭からSOHO、中規模オフィスにまで幅広く利用できる。

他の安価な複合機と異なる点として、標準で搭載しているADF(原稿自動送り装置)がある。このADFは、FAXやコピーだけでなくスキャナーにも活用できる。フラットベッドのスキャナーだと原稿が複数ある場合にいちいち原稿を手動で取り替えてそのつどスキャンをしなければならないが、ADFがあればこの手間を省ける。またソートに対応したコピー機能でもADFは大いに活躍する。

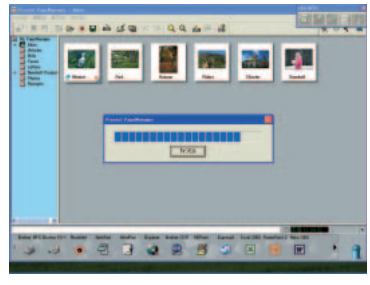
マイクロソフトワードなどを利用して文書や画像を作成し、そのまま印刷する感覚でMFC-5200JからFAXを送信できる「PC-FAX機能」も操作が簡単だ。印刷するときのプリンター設定で、「Brother PC-FAX」を選べば、電話のダイアル画面が自動で立ち上がる(右上画面)。そこでFAX番号を入力して「送信」をクリックする。受信したFAXのデータをパソコンに直接取り込めるので、必要なものだけを印刷できる。ただし、PC-FAX機能の送受信はモノクロ文書になる。

ダイレクトプリント機能では、メモリースティック、スマートメディア、コンパクトフラッシュの3つのスロットを用意している。挿し込んだときにカチっというクリック感があまりなくカードが認識されているかどうか不安になったが、インジケーターランプの点灯と点滅で動作状況がわかるため、その心配もいらない。ダイレクトプリントは、初めにインデックスプリントを印刷し、それを見て必要な画像の番号をテンキーで入力する。スキャンした原稿をパソコンで表示しないで、そのままスロットに挿し込んだカードに保存できる「スキャン to カード」機能は、画像データの受け渡しに便利だ(白黒原稿はTIFF、カラーはPDFかJPEGかを選べる)。

機能的には満足のいく製品だが、難点はインクジェットプリンターの印字がきめ細かさに欠ける点だ。モノクロの文章を普通紙に印刷したときに少しにじんでいるような印象を受ける。カラー画像ではそれほど気にならない部分でも、これは残念。FAX付きでこの値段は文句なしだが、家庭で使う場合にほかにFAXを持っているならば、より安価な複合機で十分だろう。

(編集部)

PC-FAX送信のダイアル画面。ワンタッチダイヤルや電話帳も登録できる。作った文書や画像を印刷せずに、そのままFAX送信できるのが魅力だ。



本体のスキャンボタンを押すと、自動的に画像管理ソフトのPresto! PageManagerが立ち上がり、画像が表示される。メールの添付用に、画像を直接変換することもできる。

オススメ度 ●●●○○

家庭向けには画質がイマイチという気もするが、SOHOクラスで利用するにはとてもコストパフォーマンスのいい製品に仕上がっている。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

802.11aと802.11bに対応 アクセスポイントをアイコン表示する ユーティリティーが便利

アイコムSL-5000

802.11a／802.11b対応無線LANカード

発売元	アイコム株式会社
発売日／価格	11月中旬／オープン価格（実売価格：約1万8,000円）
サイズ／重量	121（W）×11.4（H）×54（D）mm／約50グラム
対応OS	ウィンドウズ98SE/Me/2000/XP
インターフェイス	CardBusタイプII
通信規格	IEEE 802.11a／IEEE 802.11b
消費電力	400ミリアンペア
参考URL	http www.icom.co.jp/pc/seihin/SL-5000/
問い合わせ先	06-6795-1770

SL-5000は、1枚でIEEE 802.11a（802.11a）とIEEE 802.11b（802.11b）の両方に対応しているのが特徴の無線LANカードだ。802.11aは、5ギガヘルツ帯の電波を使って最大54Mbpsの通信ができる規格で、DVDレベルのビットレートの高い動画の転送にも対応できる。広く普及している802.11bは2.4ギガヘルツ帯の電波を使うが、電子レンジや医療機器と共用している周波数帯なので、ほかの機器が使う電波が「ノイズ」となり、転送速度が落ちることがあった。802.11aが使う5ギガヘルツ帯は、データ専用の周波数帯なので安定した通信ができる。

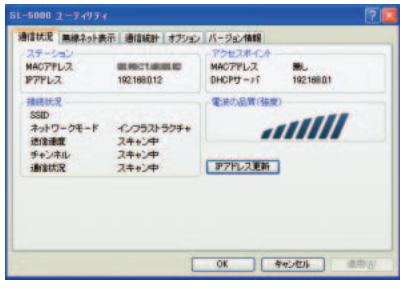
実売価格は1万8,000円前後で、無線LANカードの中では高めの価格設定だが、802.11a専用のPCカードの実売価格が1万5,000円前後であることを考えると、コストパフォーマンスは非常に高いと言えるだろう。

暗号化通信は、無線LANで標準的に使われている暗号方式WEPの64ビットと128ビットに加え、152ビットに対応している。このほか、128ビットの「OCB AES」（Offset CodeBook Advanced Encryption Standard）にも対応している。

アクセスポイントとの接続は、ウィンドウズXPが標準で搭載する接続機能が使えるが、機能と操作性が優れているので付属のユーティリティーを使いたい。

付属ユーティリティーの「通信状況」のタブを選択すると、利用しているアクセスポイントのIPアドレスとMACアドレス、電波強度、ESS-ID、通信速度などが一覧できるので、通信状態が一目で把握できる（下左画面）。さらに、「無線ネットワーク表示」のタブでは、利用できるアクセスポイントがグラフィカルに表示される（下右画面）。アクセスポイントへの接続は、利用したいアクセスポイントのアイコンを選択するだけだ。アイコンには、ESS-IDと電波強度、暗号化の有無、通信チャンネルが表示されているので、目的のアクセスポイントがすぐに発見できるだろう。アクセスポイントの検索は自動的に行われるが、しばらく待たないと目的のアクセスポイントが表示されないことがあった。手動でアクセスポイントを検索させる機能が欲しいところだ。

連続して大容量のファイルを送受信してもフリーズしないなど、ハードウェア、ソフトウェア共に安定性が高く、価格も802.11a専用カードと比べて遜色がない。無線LANに対応していないノートPCを使っているなら、ぜひ候補に挙げたい製品だ。（編集部）



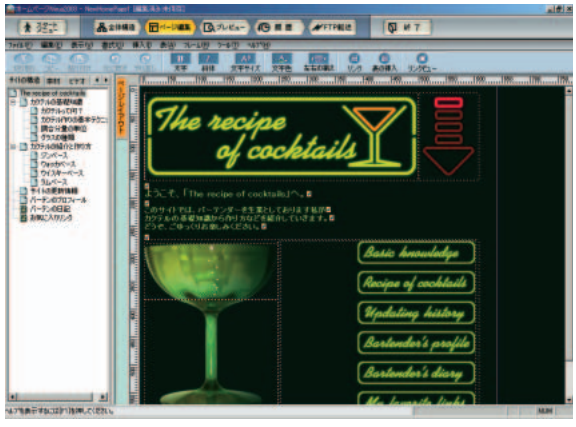
「通信状況」では、転送速度などが表示される。

アクセスポイントの一覧表示では、暗号化の状態までわかる。

オススメ度 ●●●●●

古くから無線機器を手掛けているアイコムらしく、動作が安定した手堅い無線LANカード。802.11a専用カードと大差のない価格もすばらしい。

©1994-2007 Impress R&D



作成からアップロードまでが全自動 携帯電話用のページにも対応したホームページ作成の決定版

ホームページNinja 2003 for Windows

ホームページ作成ソフト

発売元	株式会社アイフォー
発売日	12月13日
価格	標準パッケージ 6,800円 乗り換えパッケージ 3,800円 アカデミックパック 3,800円
対応OS	ウィンドウズ98/Me/2000/XP
必要メモリー	64MB以上(128MB以上を推奨)
ハードディスク	250MB以上の空き容量(標準インストールの場合)
参考URL	Jump www.ifour.co.jp
問い合わせ先	03-5436-7850

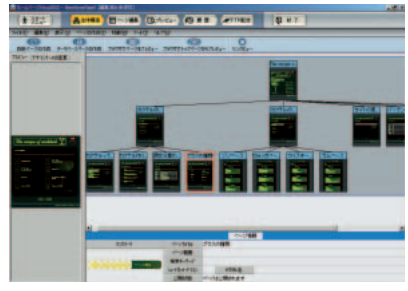
ホームページ作成ソフトも数多くあるが、「ホームページNinja 2003」の特徴はなんと言ってもその手軽さにある。プロのデザイナーが使う道具としてのソフトとしては物足りないかもしれないが、これからホームページを作ってみたいという人にこそオススメの製品だ。

起動すると、まず新規にホームページを作成するメニューとして、「おまかせウィザード」「携帯電話用」「こだわりウィザード」といったボタンが表示される。おまかせウィザードは、ジャンルとテーマを選んでレイアウトパターンやイメージを選ぶだけで、ホームページの基本構造ができてしまうものだ。「ファミリー」「ホビー／収集」といったジャンルの中に、「育児」「玩具」「サッカー」といった細かいテーマが150以上も用意されており、さらにそれぞれについて10種類以上のレイアウトが選べるようになっている。これだけの種類があれば、「最初に作るホームページ」としてはほとんどの人がこれだけで十分に思い描いていたホームページが作れるだろう。さらに、アンケートや更新情報などをページに追加できる「こだわりフォーム」のほか、iモードやJ-スカイなどに対応した携帯電話用のホームページ作成のウィザードも用意されており、個人がホームページを作りたいという用途をほぼカバーしている。

作ったホームページは、FTPで自動的にアップロードされるが、すでに登録されている20社以上のプロバイダーであれば、ユーザー名とパスワードを入力するだけでOKの簡単設定。既存のHTMLファイルの読み込みも可能で、ページ編集機能もカーソルアニメーションやステータスバーに表示される文字の変更など、中級者以上のユーザーにとっても十分に豊富な機能を備えている。このほかにも、デジカメで撮った画像のサムネイル表示や取り込みを行うマネージャー機能、ビデオ映像の取り込みや編集が行える「VideoEditor」など、映像系のツールも充実しているのも特徴だ。

ホームページNinjaは、誰でもすぐにホームページが作れるというコンセプトに基づいた製品としてとてもよくできており、ホームページは作りたいけれど知識はまったくないというユーザーにもおすすめできる。あえてさらに要望がある点としては、せっかく多くのプロバイダーにFTPが対応しているのだから、各プロバイダーが用意している掲示板などのCGIに対応してもらいたかったところだ。個人ページで扱うジャンルはさまざまだが、その目的の多くは同じ趣味の人とのコミュニケーションにあるはず。今後は、そうした掲示板やチャットといったコミュニケーション機能にまで対応してくれば、さらに多くのユーザーのニーズを満たすことができるのではないだろうか。（編集部）

「おまかせウィザード」の画面。作りたいページのテーマを選べば、基本構造はすぐにできあがる。



ページの全体構造はツリー状の図で確認でき、各ページを連動的に編集できる。

オススメ度 ●●●●○

ウィザードに従って基本構成を造り、あとは文字や画像をはめ込んでいくだけで、誰でも簡単にホームページが作れる。始めてホームページを作る人から、もっと楽にページを更新したい中級者まで、多くの人におすすめの製品だ。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

使う人に合わせて進化する テレビをもっと楽しみたい人のための パーソナル録画エージェント

ソニー CoCoon CSV-E77

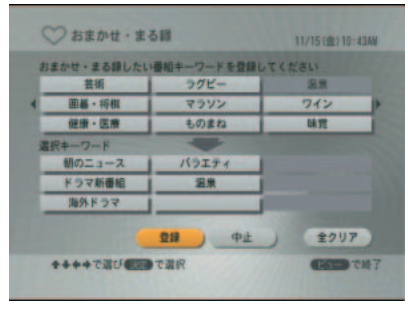
ハードディスクレコーダー

発売元	ソニーマーケティング株式会社
発売日／価格	11月1日／オープン価格（実売価格約13万円）
サイズ／重量	幅430×奥行き360×高さ79mm（最大突起部含まず）／約6.5kg
ハードディスク容量	160GB（320GBに増設可能：59,800円）
録画時間	長時間モード 約100時間／標準画質モード 約50時間／高画質モード 約35時間
受信チャンネル	VHF（1～12ch）、UHF（13～62ch）、CATV（C13～C38）
高画質機能	3次元デジタルノイズリダクション
映像・音声入出力端子	入力2（S/コンポジット、ステレオ音声）、出力3（D1/S/コンポジット、ステレオ音声）
ネットワーク端子	10BASE-T
参考URL	www.sony.jp/products/Consumer/cocoon/CSV-E77/
問合わせ先	0570-00-3311

AV機器の世界ブランド、ソニーの送り出す最新のハードディスクレコーダー「CoCoon」は、人とテレビとの付き合い方を変えてしまおうという意欲的な製品だ。録画機として見れば、ハードディスク容量が160GBとかなり大きい以外には、EPG（電子番組表）対応、MPEG-2録画といった基本的な部分は一般的な製品とそれほど変わるわけではない。しかし、CoCoonの最大の特徴は「ユーザーの好みを察知して、機械が勝手に番組を録画しておいてくれる」という点にある。つまり、自分専用の録画エージェントとなってくれるのだ。

通常のビデオデッキなどと同様に、CoCoonも買ってきて設置したら、まずは初期設定が必要になる。時刻合わせ、地域に合わせたチャンネルの設定などは当然だが、この段階ですでに「録画したいジャンルを指定」する画面が出てくるのに驚かされるはずだ。ここで「映画」「ドラマの新番組」「相撲」といったジャンルを指定しておくと、EPGの番組データをもとに、ユーザーが指定していない番組でもCoCoonが録画をしておいてくれる「おまかせ・まる録」という機能だ。1日にどの程度この機能で録画するかの設定も可能だ。帰宅して、CoCoonを立ち上げると「おすすめ番組」としてこれらが表示される。ここでさらにおもしろいのは「MYCAST」と呼ばれる機能だ。おすすめ番組を再生すると「今回のおすすめはお楽しみいただけましたか？」という質問に「はい／いいえ」で答えるウィンドウが開く。これに答えていくことや、ユーザーが録画予約をした番組をもとに、「このユーザーはこういう番組が好みのようだ」ということを判断することで、おすすめ録画の精度を上げていく仕組みになっているのだ。使い込むほどに、まさに自分専用の録画エージェントとなっていくのが、CoCoonの最大の特徴なのだ。しかも、テレビチューナーとMPEG-2エンコーダーを2系統搭載しており、1系統はこの「おすすめ録画」のために用意されている。ユーザーが現在見ているテレビとは別に、おすすめ録画がバックグラウンドで行えるようにするための、贅沢な設計となっている。また、イーサネット端子を搭載しており、ネットワークに接続することで、専用コンテンツ「カモン！マイキャスター」へのアクセスが可能となり、パソコンや携帯電話を使った外出先からの番組予約、新しいジャンルやキーワードの追加、CoCoon本体のソフトウェアのバージョンアップなどが可能となる。

ただし、このイーサネットはCoCoonがインターネットに接続するためだけに使われており、家庭のLAN内のパソコンから番組の予約や視聴といった使い方には対応していないのが残念な点だ。（編集部）



興味のあるジャンルを指定しておくと、CoCoonが自動的に録画しておいてくれる「おすすめ・まる録機能」の画面。

専用コンテンツ「カモン！マイキャスター」、外出先からの録画予約などと連携する。

オススメ度 ●●●●○

テレビが大好きで、おもしろそうな番組を見逃すと悔しくてしかたない、という人にはピッタリの製品だ。ただ、DVD-Rドライブなどはないので「録画した番組は残しておきたい」という人にはあまり向いていない。

©1994-2007 Impress R&D

録音しながら写真が撮れる！再生すれば撮った写真が自動で表示されるICレコーダー

Voice-Trek W-1

ICレコーダー

発売元	オリンパス光学工業株式会社
発売日／価格	11月15日／2万8,000円
サイズ／重量	119.5（W）×29.5（H）×19.5（H）mm／70g（電池含む）
記録媒体	内蔵型32Mバイトフラッシュメモリー
撮像素子	1/4インチVGA C-MOSイメージセンサー30万画素
記録方式	音声ADPCM形式（WAVE準拠）、画像JPEG（DCF準拠）
録音時間	HQモード約1時間31分、SPモード約2時間17分、LPモード約6時間4分（写真撮影なしの場合）
記録画像	640×480ピクセル、最大記録コマ数250枚
アルカリ電池持続時間	音声録音約24時間、画像撮影約5000枚以上
参考URL	Yahoo! www.olympus.co.jp/LineUp/VTREK/W1/
問い合わせ先	オリンパスカスタマーサポートセンター　0120-084215

ICレコーダーで定評があるオリンパスの最新機種「Voice-Trek W-1」は、30万画素のデジタルカメラを搭載し、録音しながら同時に画像を記録できる。デジタルカメラ付きのICレコーダーは、これまでにもアイワの「IC-DP200」などがあったが、音声と静止画を同時に録音や再生、表示の連携機能が付いた機種は初めてだろう。

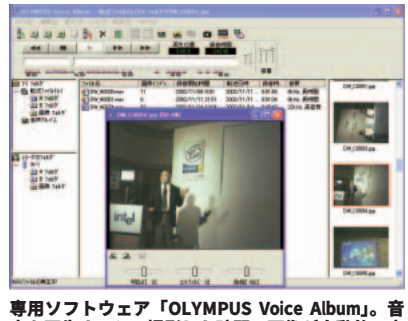
ICレコーダーは、会議や講演、商談、インタビューなどで利用するほかにも、メモ代わりにこまめに録音している人もいると思う。しかし、録音した件数が増えてくると、各録音ファイルが何を録音したものかわからなくなることはないだろうか。W-1は、録音した音声ファイルに撮影した画像がリンクされるので、誰の発言を録音したのかが画像を見れば一目瞭然。画像を音声ファイルのインデックスとして使えるわけだ。また、録音中は1ファイルに50枚まで撮影できる。

音声は本体のスピーカーで聞けるが、液晶モニターは付いていない。このため、「音声と画像のリンク・インデックス機能」を使うには、付属USBケーブルでPCと本体を接続し、音声ファイルと画像ファイルを管理して活用するための専用ソフトウェア「OLYMPUS Voice Album」でデータを転送しなければならない。Voice Albumで音声ファイルを再生すると、撮影した時間に合わせて自動で画像が表示される。全画面で画像を表示させながら音声を再生する「音声付きスライドショー」も可能だ。こうした再生機能は、何人も登壇者が変わる講演を録音しているときに、各登壇者を撮影しておけば誰がどの発言をしたのかがわかるので非常に便利だ。再生は音声ファイルをダブルクリックしても、リンクされた画像ファイルをダブルクリックしてもできる。画像ファイルのリンク位置を変更することもマウスで簡単に行えた。

また、リンクできる画像はなにもW-1で撮影した画像に限らない。ほかのデジタルカメラで撮影した画像など、JPEGかBMPの形式ならば音声ファイルにリンクさせられる。その逆に、画像ファイルに後からW-1で録音した音声ファイルをリンクさせることもできた。リンクさせたファイルはAVI形式に変換して、ウィンドウズメディアプレイヤーで再生できる。

W-1で録音した音声ファイルは、歴代のVoice Trekと違ってオリンパス独自の高圧縮高音質ファイル形式であるDSS形式を採用せずに、汎用性を重視してWAVE形式を採用している。開発ではMP3形式も考えたが、そうすると高速の信号処理プロセッサーが必要になり、ライセンス料も別途かかるなど、コスト的に想定した価格帯に収まらないと判断したために採用しなかったと言う。さらに、最近のICレコーダーの多くはUSBストレージクラスに対応しており、PCと接続すれば外部記憶装置として認識されるが、このW-1は対応していない。W-1をPCに接続してマイク代わりにして、保存済みの画像に音声コメントを録音するというVoice Albumの機能が実現できなくなるために対応しなかった。

残念な点は、撮影で失敗することが多いことだ。撮影はボタンを半押しして撮影ランプが緑色になったら全押しするのだが、明るさの自動補正などが決まらずになかなか緑色にならずに「ここぞ」というチャンスを何度も逃してしまった。



専用ソフトウェア「OLYMPUS Voice Album」。音声を再生すると、撮影した時間に画像が自動的に表示される。

オススメ度 ●●●○○

長時間モードでの録音ではノイズが入る。また、手ぶれなどで撮影に失敗することも多いが、単におまけとしてカメラを搭載しなかったことは評価できる。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

iショットや写メールの画像を取り込んで管理できる携帯電話ユーティリティー

携帯マスター9

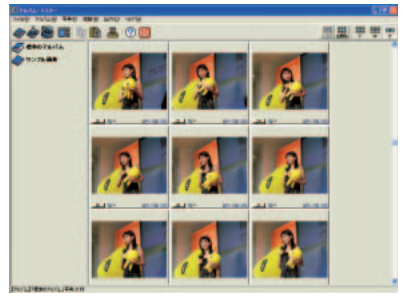
携帯電話ソフト

発売元	株式会社ジャングル
発売日	12月6日
価格	充電機能付USBケーブル版 NTTドコモ、Jフォン、ツーカー用 9,800円／USBケーブル版 NTTドコモ、Jフォン、ツーカー用 6,980円／シリアルケーブル版 NTTドコモ、Jフォン、ツーカー用 3,980円／USBケーブル版 for au au版 6,980円 アップグレード版（旧バージョンユーザー向け）3,800円
対応OS	ウィンドウズ98/2000/Me/XP
必要動作環境	CPU：Pentium300MHz以上／メモリー：32MB以上（64MB以上推奨。XPの場合は128M以上）／ハードディスク：空き容量100MB以上
参考URL	www.junglejapan.com/ktai/
問い合わせ先	ホームページ問い合わせフォーム www.junglejapan.com/ktai/ktaiform.html

『携帯マスター9』は、携帯電話とパソコンのあいだでさまざまなデータのやり取りをできるようにする携帯電話ユーティリティーソフトだ。携帯電話のメモリーダイアルをパソコンにバックアップしたり、『Outlook Express』や『筆まめ』などのソフトで作成したデータをインポートしたりできる「メモリダイアル・マスター」や、送受信したメールのバックアップができる「メール・マスター」、待ち受け画面を作成できる「スクリーン・マスター」など11の機能がある。すでに同様のソフトは数多く出ているが、そのなかでも『携帯マスター9』は、iショットや写メール、フォトメールなどの画像をパソコン上で管理できる「アルバム・マスター」など画像関連の機能や、着信メロディーを作成する「メロディ・マスター」など音関連の機能を豊富に持っているのが特徴だ。これらの機能を組み合わせれば、iショットや写メール、フォトメールで届いた画像をパソコン上で管理し、それを印刷したり、使っている携帯電話端末に合わせた待ち受け画面に加工したりすることも可能だ。

しかし、このソフトを利用して実際にこれらの作業をしてみると、これがなかなか面倒だ。というのも、「アルバム・マスター」のほか、メモリダイアル管理やメール管理、着信メロディー作成など数多くの機能は揃っているのだが、それがすべて「○○・マスター」というコンポーネントに小分けされてしまっており、どの機能がどの「○○・マスター」に収められているのか、そしてそれらをどのように連携させていけばいいのかがわかりにくい。今回、iショットで送られてきた画像をパソコンに取り込み、待ち受け画面用に編集して携帯電話端末に送信するという一連の動作をしてみたのだが、①「メール・マスター」でメールを取り込み、②「アルバム・マスター」で画像を管理し、③「スクリーン・マスター」で編集して携帯電話に画像を送信する、と3つものコンポーネントを順番に立ち上げて使わなくてはならなかった。しかも、キャリアや機種によっては独自の方法が必要になる。このような複雑な操作体系では、初めて使うユーザーは、マニュアルを熟読しないかぎり、ランチャーに並んだ11個ものコンポーネントのうち、一体どれを起動させればいいのかさえもわからないだろう。

コンポーネントひとつひとつを見れば、専用ソフトならではの使い勝手を提供しているものも多い。「スクリーン・マスター」を使って待ち受け画面を作ってみたのだが、自分の端末に実際どのように写るのかがプレビューできるため、普通の画像処理ソフトを使うよりもずっと簡単に作成できた。それだけに、初めてのユーザーにとってやたらと高い敷居がもったいなく思える。（編集部）



パソコンに取り込んだ画像をサムネイルで管理できる「アルバム・マスター」。しかし、この機能だけでは、携帯電話からの画像の取り込みはできない。

12ものボタンが並ぶランチャー。機能豊富に見える反面、どれを使えばいいのかわかりにくい。

オススメ度 ●●○○○

待ち受け画面や着メロを作成できるため、ケータイを自分好みにカスタマイズするのに便利。ただ、複雑すぎて使いこなすまでが大変。

©1994-2007 Impress R&D

［インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ］ ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D（株式会社インプレスから分割）が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

http://i.impressRD.jp/bn

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレス R&D）、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D（当時は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先
株式会社インプレスR&D
All-in-One INTERNET magazine 編集部
im-info@impress.co.jp

Copyright © 1994-2007 Impress R&D, an Impress Group company. All rights reserved.